

【 9月8日(木) 北海道新聞(朝刊) 30面 】



患者図書室「はあと」の塗り絵コーナー

色鉛筆で癒やされて

室蘭の病院 19日に塗り絵講座

製鉄記念室蘭病院は19日午後1時から、同院患者図書室「はあと」で初の「大

人のぬりえ講座」を開く。同院はリハビリテーションの一環で塗り絵を取り入れており、「リラックスできる」と好評。一般の人にも親しんでもらおうと企画した。

塗り絵は脳卒中や脳梗塞の後遺症で指先の動きが衰えた人などの回復訓練に使われている。絵を描くことで体に癒やされる効果もあるとされ、2014年に新設した患者図書室「はあと」にも塗り絵のシートや見本、色鉛筆を置いている。

診察や検査の待ち時間に利用する人が多い。

講座は、伊達市で絵画教室「いろえんぴつart hotaru(アート ホタル)」を主宰する塩谷恭子さんが講師を務め、実際に色鉛筆やパステルを使って塗り絵をする。同院の理学療法士工藤友美さんは、塗り絵が患者にもたらす効果を事例を交えて説明する。

定員は20人で、15日までに申し込む。画材代千円が必要。申し込み、問い合わせは同院経営企画課0143・47・4404へ。

(生田憲)